

## 成果目標

就業規則を見直す

ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する

女性医師数35名を目指す  
(後期臨床研修医を除く)

看護師の離職率5%未満を目指す

## 中期計画

医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。

### 大学の取組

- ・仕事と生活を両立できる職場環境作りを検討するワークライフバランス検討委員会の設置・運営
- ・短時間正規労働制度の導入等就業規則の見直し、女性医師・看護師等の継続・復職支援、保育制度の充実等、ワークライフバランス推進のための制度等の構築や見直し

### 県の役割

- ・就業規則の見直し支援(県立病院に係る就業規則の見直し検討と調整)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
女性医師数	25名	27名	29名	31名	33名	35名
看護師の離職率	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%
就業規則の見直し	見直し					
ワークライフバランス検討委員会の設置・運営	設置	運営				

## IV 診療

### 2. がん拠点病院としての機能の充実

#### 現状あるいは課題

(現状)

- ・腫瘍センター及び放射線腫瘍医学医師数  
6名(平成24年5月現在)
- ・がん治療延べ患者数 30,825名(平成23年度)  
内訳:放射線治療延べ患者数20,632名  
化学療法延べ患者数(入院・外来計)10,193名

(課題)

- ・がん治療対策として、放射線治療・核医学科や腫瘍センター等の医師の充足が必要
- ・看護師を含めたチーム医療体制の充実強化が必要



## 成果目標

がん診療に特化した医師数を平成24年5月現在に比べ倍増を目指す

がん治療の年間延べ患者数35,000名に対応する

## 中期計画

都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。

### 大学の取組

- ・高度で専門的ながん医療の提供及び、がん医療に携わる人材の育成・確保
- ・本県の緩和ケア提供体制の中で、本院緩和ケアセンターがその中核的な役割を果たすべく稼働(再掲: I-7)
- ・がん診療に関するチーム医療体制の充実・強化
- ・がん登録の推進

### 県の役割

- ・(仮称)中央手術棟及び新県立奈良病院の整備、供用開始
- ・県内におけるがん診療体制の充実に向けた仕組みづくり

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
がん治療件数	32,000件	32,700件	33,400件	34,100件	34,700件	35,000件



## IV 診療

### 3. 治療成績の一層の向上

#### 現状あるいは課題

(課題)

- ・診療の質に対する現状分析と一層の質の向上が必要
- ・臨床指標(クリニカルインディケーター)等について一層の情報発信が必要



## 成果目標

診療内容向上委員会を  
設置・運営する

臨床指標（クリニカルイン  
ディケーター）を設定し、改善  
する

臨床指標をホームページへ  
掲載し、毎年更新する

## 中期計画

（仮称）診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標（Clinical Indicator）を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。

## 大学の取組

- ・診療の質と量に対する現状分析と一層の向上を検討する（仮称）診療内容向上委員会の設置・運営
- ・臨床指標の設定と管理及び、ホームページへの掲載と更新

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
診療内容向上委員会の設置・運営	設置	運営・実績報告				
臨床指標の設定・公表	設定・公表	公表の継続と数値の改善				



## IV 診療

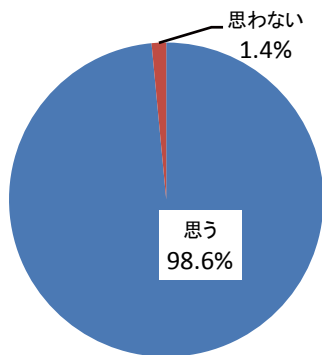
### 4. 患者満足の一層の向上

#### 現状あるいは課題

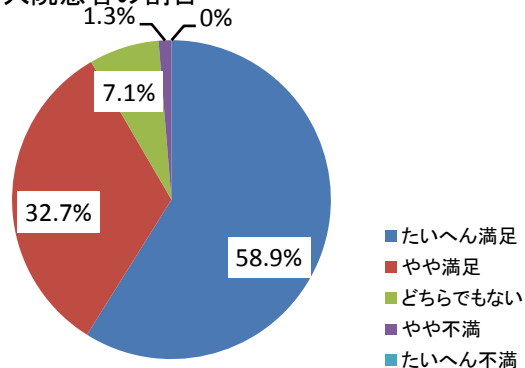
(現状)

- ・今後も医大を受診したいと思う外来患者の割合、診療内容に総合的に満足している入院患者の割合とも90%以上(平成23年度)
- ・診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合 35.3%(平成23年度)

今後も医大を受診したいと思う  
外来患者の割合



診療内容に総合的に満足している  
入院患者の割合



(課題)

- ・診療内容に総合的に満足している人の割合の一層の向上が必要
- ・医療人の一層のホスピタリティマインドの醸成が必要



## 成果目標

診察の待ち時間が長いと感じる患者の割合年1%ずつの減少を目指す

入院・外来の診療内容に総合的に満足している患者の割合90%以上を維持する

ホスピタリティマインド向上委員会を設置・運営する

## 中期計画

医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。

## 大学の取組

- ・ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営
- ・職員を対象としたコミュニケーション研修の実施
- ・ハード・ソフト(総合案内、誘導案内、ボランティアによる親切な案内の実施等)両面にわたる患者の視点にたったアメニティづくり
- ・患者満足度調査、声のポスト等による患者意見の病院運営への反映

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
診療内容に満足している患者の割合	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
診療の待ち時間が長いと感じる患者の割合	35%	34%	33%	32%	31%	30%
ホスピタリティマインド向上委員会の設置・運営	設置	運営				
ホスピタリティマインド醸成研修の実施	実施					

I 地域貢献

II 教育

III 研究

IV 診療

V まちづくり

VI 法人運営

## IV 診療

### 5. 老朽・狭隘施設への対策

#### 現状あるいは課題

(現状)

- ・診療関連施設の老朽化(病院本館旧館は築50年)
- ・外来患者数の増加

(課題)

- ・老朽かつ狭隘な施設への対策が必要

(仮称)中央手術棟整備イメージ





## 成果目標

(仮称)中央手術棟の平成27年度中のオープンを目指す

教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する

教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する

## 中期計画

附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。

### 大学の取組

- ・(仮称)中央手術棟の完成と運営
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲:II-3)
- ・老朽・狭隘な診療関連施設の早期改築の推進
- ・教育・研究部門等移転後の新外来棟等附属病院の整備計画の策定及び着手

### 県の役割

- ・(仮称)中央手術棟の整備
- ・教育・研究部門等移転後の附属病院の整備
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の設置(大学と合同)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
(仮称)中央手術棟の整備	第1期竣工	→	第2期竣工	運営・機能充実		
教育・研究部門移転後の附属病院の整備	基本構想策定	→	老朽施設工事着手	→	基本・実施設計着手	

I 地域貢献

II 教育

III 研究

IV 診療

V まちづくり

VI 法人運営

# V まちづくり

## 1. 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備

### 現状あるいは課題

(現状)

- ・大学施設の老朽化
- ・大学の敷地が狭隘であり、建て替え用敷地等が不足

(課題)

- ・教育・研究部門の移転と適切・妥当な新キャンパスの整備が必要

### 成果目標

新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す

教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する

### 中期計画

平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。

### 大学の取組

- ・平成33年中の新キャンパスオープンを目指した整備の推進(再掲: II-3)
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の県と合同での設置・運営(再掲: II-3)

### 県の役割

- ・新キャンパスの移転整備(全額県負担)
- ・医科大学を中心としたまちづくりの推進
- ・教育・研究部門等移転対策検討委員会の設置(大学と合同)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
新キャンパスの整備	基本構想策定	→	基本設計着手	→		建築工事発注準備